



病児保育室「はる」をご存知ですか??

保育室 保育士

病児保育室
はる

病児保育室「はる」は、平成26年4月、八王子市の委託を受け開設しました。小さなお様が病気になり、仕事や傷病、出産、冠婚葬祭等の理由により家庭で育児ができないときに、一時的にお預かりし、子育てと就労の両立を支援する施設です。

Q.1 年齢制限はあるの?

A. あります

対象年齢：生後57日目～小学校3年生

保育時間：9時～17時(※)

定員：7名

(※) 前後1時間の延長保育可能
月～土(祝日・年末年始除く)



Q.2 感染症の利用は?

A. できます(麻疹/風疹など一部を除く)

発熱などの風邪から、胃腸炎・インフルエンザ・水ぼうそう等の感染症のお子様も別室でお預かりしており、薬の投与も行います。ただし、麻疹/風疹のお子様はお預かりできません。



Q.3 過ごし方が知りたい!

A. お子様の症状に合わせ、DVDを見るなど、室内で静かに過ごします。その間、看護師・保育士が観察にあたります。

お子様が心地よい環境の中で、安心して身体を休められるよう心がけています。

利用者数	
H26	605名
H27	631名
H28	616名



ごあいさつ

私たち保育士は、「**子どもの安全・保護者の安心**」をモットーに、日々保育を行っています。睡眠中のチェックは0歳児のお子様は5分ごと、1歳以上のお子様は10分ごとに様子を確認しています。昼食は離乳食・小児食の対応ができ、アレルギー除去食の用意が可能です。

衛生管理による感染防止にも努めていますので、安心してご利用いただけます。詳細は当院または八王子市のホームページをご覧ください。

保育士



医療法人社団 永生会



南多摩病院広報誌

平成29年 5月 第14号

みなみ じゅう せい
南 十 字 星

発行・編集 / 南多摩病院 広報誌作成委員会 042-663-0111 (代表)

〒193-0832 東京都八王子市散田町3-10-1



子どもの発熱 ～ 危険な発熱ってあるの?? ～

小児科部長 賀来 秀文

はじめに

「南十字星」をお読み頂いている方には、お子様やお孫様がいらっしゃる方も多いと思います。子どもを育てていて心配なことは多々ありますが、病気はその一つだと思います。当院の小児救急で、一番多い受診理由が発熱です。

お子様が発熱し、39℃以上になると後遺症を心配される方が多くいらっしゃいます。

高熱=重症ではない!?

中でも、高熱だと脳への影響があるのではないかと心配される方がいらっしゃいますが、一時的な高熱ならまず問題はありません。脳への影響は発熱自体が問題ではなく、病気の場所が関係するからです。

つまり、発熱の程度は病気の重症度ではなく、免疫細胞の反応次第ですので、高熱だから重症というわけではありません。

発熱のメカニズム

1. 体内に異物が侵入
2. 異物を排除するためにリンパ球などの免疫細胞が働く
3. 最初に到達した免疫細胞が、他の細胞に異物が侵入したことを知らせる警報を出す



警報内に発熱物質が含まれているため発熱をする

危険な発熱とは

それでは、すぐに受診したほうがいい、危険な発熱について説明いたします。

医学上 37.5℃以上を発熱、39℃以上を高熱と呼びます。前項でも述べましたが発熱自体は異物の侵入に対する防御反応の一つですが、下記3つの症状であった場合は重篤な疾患のサインである可能性があるため、すぐ小児科を受診してください。

1. 3ヶ月未満の赤ちゃんが38℃以上の発熱

赤ちゃんは防御反応が未熟で発熱しないことが多いので、発熱したということは、髄膜炎や敗血症などの重篤な細菌感染症になっている可能性があります。上記の細菌感染症は、発見が遅れると後遺症や最悪の場合死亡する危険性もあります。そのため、赤ちゃんには痛みを伴う検査になりますが、血液検査のほか、必要に応じて髄液検査や尿検査などを行います。



(次ページへ続きます)



賀来 秀文 医師

2. 長く続く発熱

高熱ではなくても発熱が4～5日以上続く場合は、肺炎などの細菌感染症以外にもウィルス感染症や膠原病、白血病などの悪性腫瘍の可能性もあります。すぐに受診してください！こちらで発熱の原因を調べるために血液検査をはじめ、様々な検査を行うことになります。



3. 発熱後の状態に注意！

発熱後、元気がなくなり、嘔吐して水分も飲めないような状態、ぐったりして、意識がなくなるような場合は注意しなければなりません。

この場合は、髄膜炎や脳炎・脳症など重篤な病気の可能性もあるので、上記の症状があればすぐに小児科を受診しましょう！

熱性けいれん

小児科外来で一番多い受診症状は発熱ですが、救急車利用の最も多い症状は、けいれんで、発熱がきっかけで起こる“熱性けいれん”が最多です。実は、この“熱性けいれん”は原因が不明で、年齢や、人種・遺伝的要因があるとされています。



日本人は、他の人種に比べると、熱性けいれんになりやすいそうです。割合でいうと、5～7%になります。1学級を40名とすると、2～3名は、けいれんを起こしたことがあるという計算になります。

人種

年齢

遺伝

熱性けいれんを起こしやすい年齢は、生後6ヶ月～6歳ですが、10歳ごろまで可能性があります。年齢が上がれば、発症率は低くなるので、脳の成熟度と関連があるようです。知能とは全く関係ありません。

父親が熱性けいれんだった子どもは、そうでない子どもより2倍ほど発症しやすくなっています。



けいれんを起こしたら・・・

通常は5分以内にけいれんは止まり、意識が戻ります。しかし、5分以上けいれんが続いた場合や、けいれんが止まっても意識の戻りが悪いような場合には受診してください。まずは、けいれんを止める治療を行い、原因の検査をすることになります。

けいれんを何回も起こす場合や、けいれんを起こすことが心配な場合には、けいれん予防の薬を使うかどうか、かかりつけ医とご相談下さい。

おわりに

子どもが高熱を出すと不安になるかと思えます。夜中に高熱に気付いてどうしたらいいのか困ってしまった方も多いのではないのでしょうか。

南多摩病院は、八王子市内2次救急指定病院唯一の小児救急で、365日24時間体制をとっている病院です。不安なことがあれば、いつでも当院へ症状をご相談ください。



紫外線から眼を守りましょう

医療技術部 視能訓練士

紫外線の強さは、季節や時間によっても異なります。季節でいうと、暑さのピークを迎えるよりも早い5～8月に最高となります。また、紫外線が最も多く降り注ぐのは、午前10時～午後2時の時間帯です。皆様は、紫外線による眼へのダメージがどのような病気を引き起こすことになるかご存知でしょうか。



紫外線が原因となる病気の一例

- 翼状片 (よくじょうへん)
- 白内障 (はくないしょう)
- 雪眼炎 (せつがんえん)
- その他、けんれつはん 瞼裂斑など



翼状片は、白眼の組織の細胞が、異常に増殖して黒眼に食い込んでしまっただけで起こる眼の病気です。白眼と黒眼の境界線が紫外線で傷つくことが原因と考えられています。

白内障は、水晶体のたんぱく質が変性し次第ににごってくる病気です。主な原因は加齢ですが、白内障の約20%は紫外線が原因とされています。

雪眼炎は、主に雪面から反射する紫外線の作用で起こります。

紫外線対策！！～大切な眼を守る方法～



帽子・日傘

頭上から降り注ぐ紫外線を防ぐには、帽子や日傘が効果的です。帽子は、つばの広いものを選びましょう！！日傘を選ぶ際はUVカット加工がされたものが望ましいです。見落としがちなのは、アスファルトの照り返しです。こちらの対策には、日傘の内側が黒色の物がお勧めです！



サングラス
コンタクト
眼鏡



色が濃いだけのレンズでは、紫外線は防げません！

人間は濃い色のサングラスをかけると、視界が暗くなるため、もっと光を取り入れようと眼の瞳孔が開きます。UVカット加工のされていないサングラスでは紫外線がレンズを通過し、広く開いた瞳孔から紫外線を取り込んでしまいます。色の濃淡にかかわらず、必ずUVカット加工のされたサングラスや眼鏡、コンタクトレンズを選んでください。



表示をチェック！！

UVカット加工のされたものなら、透明レンズでも紫外線対策ができます。「UV400」のシール、「紫外線透過率1.0%以下」の表示なら、紫外線は**99%以上**カットされます。

さらに、サングラスの隙間や横からの紫外線を防いでくれる大きめのレンズ、レンズを支えるフレームやテンプル(つる)の部分が広いタイプは、より紫外線のカット率が上がります。



100円ショップでも購入できます

